

旧大岡村の人たちが 見ている方向

長野県長野市・大岡地区

旧大岡村は2005年に長野市へ合併した、人口約1100人・世帯数約560の地区だ。合併から9年。人も仕事も減っていく……、そんな現実には抗しながら、地域に根ざして暮らすむらの人を訪ねてみた。

文・写真 編集部



1999年から2010年にかけての「平成の大合併」で、全国の市町村数は3232から1727まで減少。長野市は05年に大岡村、鬼無里村、戸隠村、豊野町と、10年に信州新町、中条村と合併した。

子育て支援とイターンに
手厚い村だった

長野市中心部から車で南へ1時間。途中からぐぐっと一気に山を上ると大岡のむらが見えてくる。

標高は400〜1300m。傾斜地に57の集落が点在し、晴れた日は北アルプスの山並みを一望できる、風光明媚なむらだ。

一軒あたりの農地は平均5a前後だが、5カ所の湧水に恵まれ、むかしから周辺のむらより米がとれる地域だった。1950年頃までは養蚕や林業も盛んで、冬は木炭が農協に出荷されていた。

その頃は人口も4000人以上あったが、90年代には2000人を切った。その対策に大岡村は外からの人の受け入れに力を入れた。たとえば、97年から2004年までに43棟の菜園付き住宅を建てて、イターン者を積極的に呼び込んだ。

また、山村留学に取り組み、農家と協力して都会から子どもを受け入れる仕組みをつくった。現在も継続して行なわれている。

2005年1月に周辺3町村とともに長野市と合併し、一気に38万人もの自治体となった。

合併後、むらに起こったこと

- 補助金の減額・廃止
 - ・保育園料、水道代、介護保険料がアップ
 - ・公民館への補助金が減額（世帯割1200円→200円）
 - ・高校生の通学助成が廃止（年間1万円）
 - ・定住促進事業が廃止（大人10万円・5歳未満5万円など）
 - ・菜園付き住宅入居者への農家の農業指導料が廃止
- 支所の宿直制度の廃止
 - 夜間災害時は本庁に連絡。即対処できるか心配
- 市営管理施設の指定管理者制度導入
 - 必ずしもむらの雇用に結びつかない
- 市営（元村営）バスの廃線
 - 09年に4路線のうち3つが廃線。ハッピー号やスクールバスに代替
- 市営スキー場が廃止
 - 10年に赤字のため
- 中山間地域等直接支払いの加入世帯数が減少
 - （2000年496戸→2010年256戸）
- 市立大岡保育園が14年度から休園
 - 05年度に35人いた園児が14年度は1人になるため
- 小、中学生数の流出・減少
 - （05年度102人〈山村留学生15人〉
→13年度58人〈山村留学生12人〉）
- 村営住宅の空き家増加
 - PR不足や定住促進事業廃止のため、全43棟のうち3割強が空き家。13年からは長野市ホームページで公募が始まり、農業経営計画の提出を不要にするなど入居条件も緩和されたが、今後は長野市街の一般公営住宅との家賃統一（値上げ）が心配

大岡のあゆみ

- 2005年 豊野町・鬼無里村・戸隠村とともに、長野市へ編入合併
大岡地区の人口1550人・650世帯、高齢化率44%
⇒長野市の人口37万8500人
地域審議会を設置（～2015年）
- 2007年 大岡地区住民自治協議会を設置（市内で8番目）
- 2010年 信州新町・中条村が長野市へ編入合併
⇒長野市の人口38万1500人
住民自治協議会が市内全域32カ所に設置される
- 2014年 **大岡地区の人口1100人・560世帯、高齢化率52%**
⇒長野市の人口38万5100人



大岡支所から望む北アルプス 写真=内田光一郎

この合併は、複数の市町村と新しい自治体をつくるのではなく、周辺の3町村とともに長野市へ吸収される、編入合併だった。大岡村役場は長野市の大岡支所となり、大岡村役場職員は長野市職員に移行。村長などの三役、村議会議員は免職となった。施策は基本的に長野市に合わせる。

村時代、大岡は子育て支援に厚く、村営保育園料は8割、高校生の通学には年間1万円を村が補助していた。ところが長野市の保育園料の助成は3割ほど。保育園料は村時代の2倍以上になってしまった。また高校生の通学助成の制度は長野市にはないので廃止された。Iターン対象の定住促進事業もなくなった。

人口は合併前から減少傾向だったが、合併後はとくに小・中学生の数が減っている。14年度からは保育園の休園が決まった。子育て世代、たとえば元役場職員が勤務地に近い市街地へ家族ごと引越すといったパターンもあるようだ。

長野市の中に32カ所ある 住民自治協議会

厳しい状況ばかり目につくが、新しい動きもある。合併から2年